

プラ流出しない水田に

年 組 名前

全国農業協同組合連合会（JA全農）と肥料の業界団体が、プラスチックの被膜で覆った肥料の使用を2030年にゼロにする方針を発表しました。この肥料の利点や、ゼロにする理由について、記事を読んでみましょう。

① JA全農などが、プラスチックの被膜で覆った肥料の使用をゼロにするのは、なぜですか。リード（第一段落）から書きましょう。

②プラスチックの被膜で覆った肥料を使う利点は、何ですか。

③方針を示した全国複合肥料工業会と日本肥料アンモニア協会は、農家に何を知つてもらうことを目指していますか。

④環境ベンチャーのピリカが発表した調査結果について、正しく表現しているのは、ア～ウのうち、どれですか。○を付けましょう。

ア 採取された肥料の15%がマイクロプラスチックであると推定されている。

イ 採取されたマイクロプラスチックのうち、質量比で15%が肥料によると推定されている。

ウ 採取されたプラスチックのうち、15%がマイクロプラスチックであると推定されている。

プラ流出しない水田に 被膜で覆った肥料 30年にゼロへ

プラスチックの被膜で覆った肥料



環境ベンチャーや昨年3月に発表した調査結果によると、採取されたマイクロプラスチックのうち質量比で15%がプラスチック肥料によると推定されている。

プラスチックの被膜で覆つた肥料は主に水田で使われ、徐々に溶けるため肥料を与える回数を減らせる。手間が省けるほか肥料のやり過ぎも防げる。一方、マイクロプラスチック

チックが世界の海で汚染を引き起こし、鳥や魚介類がのみ込むなど悪影響が懸念されている。

J A全農や業界団体 方針

全国農業協同組合連合会（JA全農）と肥料の業界団体は21日、溶け出す時期を調節するためプラスチックの被膜で覆つた肥料の使用を2030年にゼロにする方針を発表した。被膜が流出して微小なマイクロプラスチックとなり、河川や海洋の生態系を脅かすのを防ぐ。農林水産省は削減に向けた周知活動を支援するよう都道府県に要請する。

(2022年1月22日朝刊・経済面)

プラ流出しない水田に**解答例**

年 組 名前

全国農業協同組合連合会（JA全農）と肥料の業界団体が、プラスチックの被膜で覆った肥料の使用を2030年にゼロにする方針を発表しました。この肥料の利点や、ゼロにする理由について、記事を読んでみましょう。

① JA全農などが、プラスチックの被膜で覆った肥料の使用をゼロにするのは、なぜですか。リード（第一段落）から書きましょう。

【解答】 被膜が流出して微小なマイクロプラスチックとなり、河川や海洋の生態系を脅かすのを防ぐため

②プラスチックの被膜で覆った肥料を使う利点は、何ですか。

【解答】 徐々に溶けるため肥料を与える回数を減らせる

手間が省けるほか肥料のやり過ぎも防げる

③方針を示した全国複合肥料工業会と日本肥料アンモニア協会は、農家に何を知つてもらうことを目指していますか。

【解答】 プラスチックを流出させない水田管理や回収方法

④環境ベンチャーのピリカが発表した調査結果について、正しく表現しているのは、ア～ウのうち、どれですか。○を付けましょう。

ア 採取された肥料の15%がマイクロプラスチックであると推定されている。

イ 採取されたマイクロプラスチックのうち、質量比で15%が肥料によると推定されている。

ウ 採取されたプラスチックのうち、15%がマイクロプラスチックであると推定されている。